

岩内西小学校 いじめ防止 マニュアル



岩内西小学校 いじめ防止対策基本方針

I 基本方針

1 岩内西小学校いじめ防止対策基本方針

いじめは、人として決して許されない行為である。しかしながらいじめは、どの子にも、どの学校にも起こり得ることであり、その結果、深く傷つき、悩み、時には不登校になってしまったり、自らの命を絶とうとしてしまうなど、いじめの問題への対応は学校の大きな課題である。学校は、教育委員会・家庭・地域と一体となって、その未然防止、早期発見、早期対応に取り組まなければならない。

そこで岩内西小学校では、校長のリーダーシップのもと、学校全体で組織的な取り組みを進めるとともに、全ての教職員が「岩内西小学校いじめ根絶」のため指導実践ができるよう「岩内西小学校いじめ防止対策基本方針」を定める。

2 いじめとは

「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

3 いじめの基本的な認識

- 1 いじめはどの子にも、どの学校にも起こり得るものである。
- 2 いじめは人権侵害であり、人として決して許される行為ではない。
- 3 いじめは大人には気づきにくいところで行われることが多く発見しにくい。
- 4 いじめはいじめられる側にも問題があるという見方は間違っている。
- 5 いじめはその行為の態様により暴行、恐喝、強要等の刑罰法規に抵触する。
- 6 いじめは学校・教職員にとっての重要課題である。
- 7 いじめは教職員の児童生徒観や指導のあり方が問われる問題である。
- 8 いじめは家庭教育のあり方に大きな関わりを持っている。
- 9 いじめは「いじめる側」「いじめられる側」だけではなく、「観衆」「傍観者」など周囲に児童生徒がいる場合が多い。
- 10 いじめは学校、家庭、地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組むべき問題である。

Ⅱ いじめの未然防止

いじめ問題において、その未然防止に取り組むことが最も重要である。そのため、いじめは「どの学級でも起こり得る」という危機感をすべての教職員が持ち、好ましい人間関係を築き、豊かな心を育てる学級づくりに取り組むことが必要となる。そしてすべての教職員が、子ども達の言動に留意するとともに、何らかのいじめのサインを見過ごすことなく早期に対応することが重要である。

1 いじめの動機と態様

(1) いじめの動機

- ・嫉妬心（相手をねたみ、引きずり下ろそうとする）
- ・支配欲（相手を思いどおりに支配しようとする）
- ・愉快犯（遊び感覚で愉快的気持ちを味わおうとする）
- ・同調性（強いものに追従する 数の多い側に入りたい）
- ・嫌悪感（感覚的に相手を遠ざけたい）
- ・反発、報復（相手の言動に対して反発、報復したい）
- ・欲求不満（いらいらを晴らしたい）

(2) いじめの態様

- | | | | |
|-----------|-------------|--------|-------|
| ・悪口を言う | ・あぜける | ・落書き | ・物壊し |
| ・無視 | ・陰口 | ・避ける | ・ぶつかる |
| ・小突く | ・命令 | ・脅かし | ・性的辱め |
| ・授業中のからかい | | ・仲間はずれ | ・嫌がらせ |
| ・暴力 | ・たかり | ・使い走り | |
| ・噂流し | ・誹謗中傷（SNS等） | | |

2 互いに認め合い、支え合い、助け合う学級・学校づくり

いじめの未然防止には、まず「いじめを生まない土壌づくり」に取り組むことが必要である。そのために、教職員には子ども達のわずかなサインに気がつく感性と日常的にいじめを生まない学級づくりの実践力・指導力が必要となってくる。

(1) 子ども達のわずかなサインに気がつく感性

- ・子ども達と同じ目線で物事を考え、共に笑い、涙し、怒り、子ども達と場を共にする。
- ・子ども達一人ひとりの状況や健康・精神状態を把握し、気になったことは記録しておく。
- ・子ども達との対話を大切にするとともに、威圧的ではない親しみがあり相談しやすい人間関係の構築に努める。
- ・保護者、地域の情報を的確に捉え、子ども達の置かれている環境を把握する。

(2) いじめを生まない学級づくり

- ・児童一人ひとりが認められ、お互いを大切にし合い、学級の一員として自覚できる学級をつくる。
- ・学級のルールを守るといった規範意識の醸成に努める。
- ・わかる授業を行い、児童に基礎・基本の定着を図るとともに学習に対する達成感・成就感を育てる。
- ・子ども達が自分自身を価値ある存在と認め、「自尊感情」を感じ取れる「心の居場所」となる学級をつくる。
- ・子ども達との人間関係を深め、話をしやすい、相談しやすい学級をつくる。

(3) いじめを生まない学校づくり



温かい学級経営や教育活動を学校全体で展開していくためには、教職員の共通理解が不可欠である。互いに学級経営や授業、生徒指導等について話し合ったり、相談しあったり、気軽にかつ真剣に話ができる職場の雰囲気をつくっていくことが必要である。

そのためには、チーム部会、各特別委員会が組織として機能し、学校全体のさまざまな課題に教職員一体となって取り組む意識の構築とともに、岩内西小学校の児童を全員で指導するという意識を持たなければならない。

- ・教職員全員が、「いじめはゆるされない」という強い意思を持つ。
- ・教職員全員が、いじめ問題に対し危機意識を持つ。
- ・教職員全員が、すべての児童の指導にあたる「心の通い合う学校づくり」を推進する。
- ・教職員全員が、互いに認め合い、支えあい、助け合う職場づくりの構築に努める。

